

夏秋栽培に適した米ナス新系統の育成

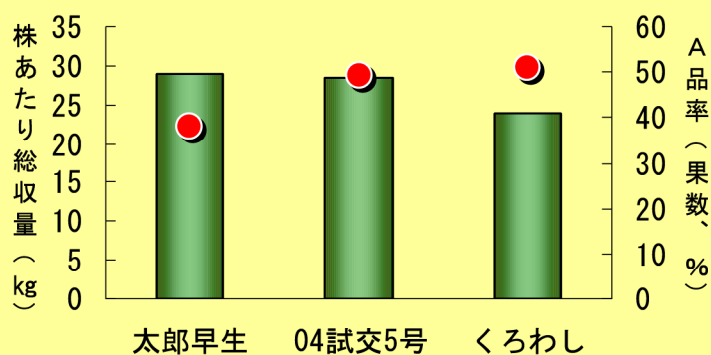


図1 04試交5号の収量およびA品率

■ 収量 ● A品率

注) 2005年5月10日定植、台木：ヒラナス
うね幅180cm、株間70cm、主枝3本仕立て
収穫期間：2005年11月30日まで

本県の中山間地域の基幹品目である米ナス栽培では、主要品種「太郎早生」で、夏秋期に赤果やキズ果が発生し、品質の低下が問題となっています。そこで、農業技術センターで育成した試交系統のうち、多収で品質のよかった4系統について、慣行品種との比較を雨よけ栽培で行いました。

その結果、育成系統「04試交5号」の収量は現在の主力品種「太郎早生」と同等で、A品率は「くらわし」とほぼ同等になりました(図1)。

「04試交5号」は果実がやや丸く、果面に条溝が現れやすいなど改良すべき点もありますが、「太郎早生」の多収性と「くらわし」の果実品質の高さを合わせ持つ有望系統として期待されます。

今後は、この系統の栽培技術を検討するとともに苦味果の発生程度についても確認する予定です。

(山間試験部 山崎教道 0887-72-0058)
(園芸作物担当 石井敬子 088-863-4916)